

CMC リサーチセミナー・ニューエネルギーシリーズ第 13 回

「世界のリチウムイオン電池産業の実際とビジネスモデル

—韓国・中国・欧州の電池産業の実態を探る—

開催日時：2014 年 12 月 12 日（金）10:30～16:30 開場 10:00

会 場：中央大学駿河台記念館 3F 350 会議室 （〒101-8324 東京都千代田区神田駿河台 3-11-5）

参 加 費：48,600 円（税込） ※ 昼食代 含

講演：佐藤 登 氏：技術経営を通じて把握できた日韓電池産業の強みと弱み 10:30～16:30

講師：名古屋大学客員教授 兼 エスペック(株)エグゼクティブアドバイザー（前サムスン SDI 常務）

1. モバイル用リチウムイオン電池の展望
2. 二次電池のリコールと事故の歴史
3. 車載用リチウムイオン電池の展望
4. 部材関連事業
5. 韓国産業界の LIB 事業
6. 車載用電池における関心事項
7. 車載用電池の開発効率向上策
8. 電池業界と自動車業界の競争力比較
9. 今後の電池業界のグローバル競争力とあるべき姿

講演：豊郷 和之 氏：韓国企業 VS. 中国企業、USA の可能性のある巨大な新市場とは？ 13:00～14:40

講師：(株)Coccolo 代表取締役、東通工(株)代表取締役（元米国ソニー副社長）

1. 中国の Li イオン電池の製造現場の状況
2. 韓国の Li イオン電池のメーカーの悩み
3. Li イオン電池における課題とは
4. ペンタゴンの裏話 など

講演：小沢 和典 氏：中国・欧州のリチウムイオン電池産業の動向 14:50～16:30

講師：エナックス（株）前代表取締役社長

1. 中国は、リチウムイオン電池企業が 1000 社を超えと言われ統計もあるがあてにならないが、国家の重要課題となっているのでその研究機関を加えるとその規模は想像を絶するものがある。従って、中国のリチウムイオン電池の産業状況を数時間の話しにまとめることは不可能であるが、焦点を絞って、一般にあまり知られていないが大きなインパクトを持ついくつかの事例を取り上げ解説する。

2. ヨーロッパは、リチウムイオン電池の事業に関しては目を覆うものがあるが、最近、開発は日本以上に力を入れ始めている。しかしドイツ一国を見ても国主体なのか、州独自なのか、企業主導なのか分からない点も多い。最近のドイツシュピーゲル誌の記事を中心に一步踏み込んで解説する。